

昭和59年度事業記録
Report on the Activities in Fiscal 1984

1. 特別展記録 Special Exhibitions



マウリッツハイス王立美術館展

1984年4月24日～6月10日

主催：国立西洋美術館，東京新聞，中部日本放送

出品内容：油彩画42点

(同6月14日～7月1日 愛知県美術館；7月21日～9月2日 北海道立近代美術館)

Dutch Painting of the Golden Age from the Royal Picture Gallery Mauritshuis

24 April—10 June 1984

Exhibited works : 42 paintings

マウリッツハイス王立美術館（ハーグ）所蔵のオランダ17世紀絵画42点を展示。この時期のオランダで全盛をきわめた風景画，風俗画，肖像画，静物画等の各ジャンルにわたり，代表的な画家たちの作例によって概観した。特に注目を集めた作品としてレンブラントの《スザンナの水浴》，《自画像》やフェルメールの《青いターバンの少女》などがあげられるが，その他にも 各々の画家の特徴を示す質の高い作品が出品された。



ニュルンベルク・ドイツ民族博物館所蔵 ドイツ美術展 中世から近世へ

1984年7月3日～8月26日

主催：国立西洋美術館，ドイツ民族博物館，東京ドイツ文化センター

出品内容：絵画13点（小祭壇1点を含む），彫刻40点（メダル10点を含む），水彩1点，版画45点，書籍3点，工芸62点（書籍外装3点を含む），計164点

Deutsche Kunst und Kultur zwischen Mittelalter und Neuzeit aus dem Germanischen Nationalmuseum in Nürnberg

3 July—26 August 1984

Exhibited works : 13 paintings (including 1 small altar), 40 sculptures (including 10 medals), 1 watercolor, 45 prints, 3 books, 62 works of applied art (including 3 book covers); 164 works in total

ニュルンベルクのドイツ民族博物館から出品された164点のドイツ美術・工芸品の展示。地理的にはニュルンベルク市，時代的には14世紀後半から16世紀前半に焦点を置いたもので，美術作品のみならず都市景観図や手工芸品等を数多く加え，「都市」，「美術」，「人間像」，「手工業」の4つのセクションにより，当時の都市文化を総合的に示した。また，関連してシンポジウム「工房か芸術家か」が開催された（講演会記録の項を参照）。



ヨーロッパのタピスリー

1984年8月28日～9月30日

会場：東京国立博物館

主催：東京都，パリ市，文化庁，

東京国立博物館，国立西洋美術館

出品内容：タピスリー27点

Les fastes de la tapisserie

28 August—30 September 1984

at Tokyo National Museum

Exhibited works : 27 tapestries

東京とパリの友好都市提携を記念する五者主催の展覧会で，東京国立博物館を会場とした。西洋美術館は，カタログ編集および作品の点検・展示の形で参加。出品作品は15世紀末から18世紀にかけて主にベルギーとフランスで制作された27点のタピスリーで，宗教的，神話的，寓意的，風俗的等，様々な主題に基く作例を時代を順に示した。



ハプスブルク家収集の名画 ウィーン美術史美術館展

1984年9月15日～11月4日

主催：国立西洋美術館，京都市美術館，ウィーン美術史美術館，毎日新聞社

出品内容：絵画48点

(同11月10日～12月9日 京都市美術館)

Meistergemälde aus dem Kunsthistorischen Museum in Wien

15 September—4 November 1984

Exhibited works : 48 paintings

ウィーン美術史美術館所蔵のルネッサンス，マニエリスム，バロック絵画48点の展示。同館の収集の母胎であるハプスブルク家コレクションを紹介する我国初の企画であり，同コレクションの趣味を反映して，華やかな絵画的魅力に富む油彩画の展覧会となった。特に，ベラスケスの《王女マルガリータ・テレーサ》，ヴァン・ダイクの《アキレウスのために武具を受け取るテティス》，レンブラントの《読書するティトス》など，バロック絵画に秀逸な作品が見られた。

2. 講演会記録 Lectures

〈マウリッツハイス王立美術館展〉特別講演会

5月12日

ネーデルラント絵画における室内表現について

国立西洋美術館研究員 幸福 輝

5月19日

マウリッツハイツ王立美術館所蔵のレンブラント作品について

長崎大学教授 兼重 護

5月26日

フェルメール作《青いターバンの少女》をめぐって

美術評論家 中山公男

〈ドイツ美術展〉特別講演会

7月7日

ファイト・シュトースの《天使の挨拶》

ニュルンベルク・ドイツ民族博物館長 ゲルハルト・ポット

(通訳：前川誠郎)

本展に関しては更に、美術史学会、東京ドイツ文化センターの主催、国立西洋美術館、ドイツ民族博物館の後援により、以下のシンポジウムが行なわれた。

シンポジウム「工房か芸術家か——中世末・近世初期の日本とドイツの美術」

7月9日～11日（会場：国立西洋美術館講堂）

発表者：カール・ボーズル（ミュンヘン大学）、網野善彦（神奈川大学）、前川誠郎（国立西洋美術館）、レオニー・フォン・ヴィルケンス（ドイツ民族博物館）、ローガー・ゲッバー（ケルン市立東アジア美術館）、田辺三郎助（国立歴史民俗博物館）、辻惟雄（東京大学）、トーマス・ブラヒェルト（ドイツ民族博物館）〔発表順〕

〈ウィーン美術史美術館展〉特別講演会

9月15日

ウィーン美術史美術館とその収集の歴史

ウィーン美術史美術館総長 ヘルマン・フィリッツ

(通訳：前川誠郎)

10月6日

ウィーン画廊の創設者、レオポルト・ヴィルヘルム大公——その収集の成立と運命

国立西洋美術館主任研究官・東京芸術大学助教授 越 宏一

3. 修復記録 Restoration

所蔵作品番号／作家名・作品名／材質・寸法

P・1973-4

アンドレアス・リッツォス

《アイコン：神の御座を伴うキリスト昇天》

テンペラ 板 71×47.5cm

今回の修復は基底材の強化保存を目的とし、絵具層の一部の固定を除き、主に裏面の処置を実施することとした。表の絵具層の修復処置については、材料技法の十分な調査を行った後で実施する予定である。

修復前の作品状態

基底材の板が虫害によって甚だしく劣化し、古釘の錆による絵具層の浮き上がり劣化が数箇所ある。

修復内容

- I 絵具層の剝落・浮き上がり箇所の固定
虫害によって左側辺一部が欠損しその付近に浮き上がりがあるため、P. V. A. T. (ポリビニルアセテート樹脂) を含浸加熱固定させる。
- II 板素地の虫食い部硬化
虫食いによって板素地のほとんどがスポンジ状になっているため、Paraloyd B67 を注射器で木材深く含浸硬化させる。
- III 板素地の虫食い欠損部充填
特に裏面右側と左上部に虫食いによる欠損ならびに横棧の痕が認められ、Paraloyd 含浸硬化のみでは保存に耐えないため、バルサ材小片による木組平面加工・彩色処理をほどこす。
- IV 釘の処理
古い釘が素地内で酸化膨張し、絵画面を突出させているため一部抜去し、素地酸化部ならびに鉄錆を Paraloyd で含浸隔離する。

〔修復：絵画修復家 河口公夫〕

4. 展覧会貸付作品 Works Lent Out

展覧会名／会期／会場

「ピサロ展」

1984年4月25日～5月20日

福岡市美術館

同5月26日～7月1日

京都市美術館

所蔵作品番号／作家名・作品名

P. 1959—166

カミーユ・ピサロ 《冬景色》

「20世紀彫刻の展望——ロダンからクリスト
まで」

1984年8月26日～10月7日

滋賀県立美術館

S・1962—1

ロダン 《バルザック》

S・1963—2

マイヨール 《イル・ド・フランス》

「ミレー、コロー、クールベ展」

1984年9月1日～10月10日

千葉県立美術館

P・1959—60

クールベ 《もの思うジブシー女》

P・1970—3

コロー 《ナボリの浜の思い出》

「ギュスターヴ・モローと象徴主義の画家たち」

1984年9月9日～10月14日

山梨県立美術館

同10月27日～12月2日

神奈川県立近代美術館

1985年1月4日～2月11日

三重県立美術館

P・1959—196

ギュスターヴ・モロー 《牢獄のサロメ》

「エコール・ド・パリ展」

1984年10月4日～11月4日

群馬県立近代美術館

P・1960—1

スーティン 《狂女》

P・1959—192

ドンゲン 《カジノのホール》

Renoir

30 January—21 April, 1985

Hayward Gallery, London

P・1959—182

ルノワール 《アルジェリア風のパリの女たち》

14 May—2 September, 1985

Galerie national du Grand Palais, Paris

大原美術館（常設）

1985年 3月20日～7月20日

P・1962—4

セガンティーニ 《風笛を吹くブリアンツァの
男たち》

P・1965—4

モネ 《セーヌ河の朝》

P・1970—1

ドラクロワ 《聖母の教育》

「萩原守衛と日本の近代彫刻——ロダンの系
譜」

1985年 4月6日～5月6日

埼玉県立近代美術館

S・1959—30

ロダン 《J. P. ローランスの胸像》

S・1959—39

ロダン 《考える人》

S・1959—53

ロダン 《化粧するヴィーナス》

S・1962—1

ロダン 《バルザック》